薬連ハイライト

本田あきこ中央後援会
令和５年度役員会が開催される

令和５年９月13日（水），都内会議室にて「本田あきこ中央後援会令和５年度役員会」が開催された。山本信夫会長の挨拶の後，本田あきこ参議院議員より厚生労働大臣政務官としての今までの活動の報告とともに，次期に向けての決意の言葉が述べられた。続いて，武田泰生日本病院薬剤師連盟会長，近藤由利子日本女性薬剤師連盟会長より，それぞれ激励の言葉をいただいた。

本田あきこ参議院議員が次期組織内候補として決定した後の初めての会議であったが，今後の活動方針と現時点までの活動報告についてそれぞれの事業毎に行われた。

最後に橋本昌子常任総務のコールで盛会裡に終了した。

本田あきこ参議院議員，厚生労働大臣政務官を退任

第２次岸田改造内閣において厚生労働大臣政務官を務めていた本田あきこ参議院議員が内閣改造により退任した。400日に及ぶ在任期間は，まさにコロナ禍での就任であった。加えて，現在も続いている医薬品供給不足問題などの難題に対応した。国会における答弁や法案成立に向けた対応など，国会議員１期目とは思えない素晴らしいもので，薬剤師資格を持った国会議員だからこそ可能であったと思わせる活躍ぶりであった。

今後も，我々薬剤師を代表する国会議員として，「優しい社会を次世代につなぐ国づくり」に向け益々の活躍を期待したい。

〈本田あきこ議員の現在までの経歴〉

●令和元年７月　参議院議員選挙　自民党比例区 初当選
●令和３年11月　自由民主党副幹事長　参議院自民党副幹事長　女性局長代理
●令和４年８月　厚生労働大臣政務官　兼 内閣府大臣政務官

オレンジ日記

大臣政務官400日を振り返って

参議院議員・薬剤師
本田 顕子

９月13日に第２次岸田第２次改造内閣が発足し，その翌々日の15日付けで私は大臣政務官の任を終えました。

昨年８月12日に大臣政務官を拝命してからの400日間は，永田町と霞ヶ関を分刻みで「行き交う」毎日でした。厚生労働行政は本当に幅広く，全てが国民生活に直結する課題ばかりで，それらの課題に取り組む厚生労働省という組織の重要性と責任・期待の大きさを改めて感じました。今回，行政機関内での制度設計や意思決定プロセスを知り，厚労省職員との関係構築ができましたことは今後の財産と思っております。

大臣政務官在任中，新型コロナへの対応は，特例的な措置・対応中心の仕組みから徐々にコロナ前の日常に移行していくこととなりましたが，９月から「令和５年秋開始接種」が始まり，インフルエンザも今冬での流行が懸念される中，今後も感染予防への高い意識を持ち続ける必要があると思います。

品質問題に端を発した医薬品の供給不足に関しては依然厳しく，厚生労働省の相談窓口では，解熱鎮痛薬のほか特に深刻な状況にある鎮咳薬や去痰薬などを対象に，個々の薬局に加えて地域の薬剤師会単位でも相談を受け付けることになりました。

９月29日付けで参議院自民党国会対策副委員長を拝命しました。国民から見た薬剤師の姿や評価を政府側の立場から見てきた経験も生かして，自民党議員として国会運営に関わり「薬剤師から政策提言！」をモットーに頑張ってまいります。

政幸だより

電子処方箋モデル事業
ー広島県安佐地域を訪問

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸

令和５年８月29日，電子処方箋のモデル事業を実施されている広島県安佐地域を訪問しました。本事業は安佐地域のほか，山形県酒田地域，福島県須賀川地域，千葉県旭地域で実施されており，事業実施期間は令和４年10月末から１年間です。重複投薬等のチェックをはじめとした電子処方箋の運用面での検証を行うとともに，電子処方箋を活用した先進的な取組や課題，優良事例を収集することにより，電子処方箋の更なる活用方策について取りまとめる予定です。

広島県薬剤師会の豊見雅文会長にご同行いただき，まず初めに広島市立北部医療センター安佐市民病院を訪問しました。薬剤部長のご案内で，実際に運用されている各部門の状況を視察させていただきました。その後，医療法人長久堂野村病院となかしま薬局を訪問し，現状を視察させていただきました。

安佐地域のモデル事業の第一の特徴は，参加する医療機関と薬局の数が多いことにあります。また，電子処方箋発行までの流れにも特徴がありました。患者さんに対して，まず保険薬局から電子処方箋に関する説明を行い，同意された場合は「電子処方箋申込書」に患者さんが署名等を記載します。これを患者さんが医療機関に持参し，電子処方箋を発行することで，電子処方箋に対応できない薬局に患者さんが処方箋を持って行くことを避けることができます。

今回，電子処方箋の運用プロセスや課題等について現状を伺い，様々な問題点を確認することができました。調剤記録や重複投薬等チェック機能は勿論，医療機関と薬局の情報交換がスムーズになることで，医療安全と薬物療法の質向上に繋がることを実感しました。今回の視察にご尽力いただきました関係者の皆様に御礼を申し上げます。